

みんなの笑顔 いっぱいのまちに



小松市長 和田 慎司

インタビュー

3期目の新たなスタートを切った和田慎司市長。ひととまちが躍動する小松を目指し、ビジョン実現に向けて政策を推進する市長に、これからの方針や施策についてお聞きしました。

北陸で際立った国際都市をめざして、まちの新しい形づくりに挑戦

——和田市政3期目がスタートしましたね。

多くの市民の皆様からご支援やご支持をいただき、三たび、市政運営をお預かりすることになりました。

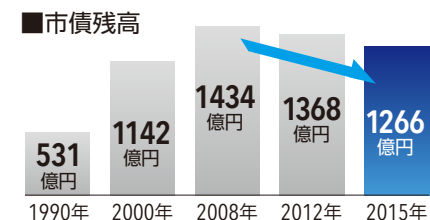
これは、2期8年の取り組みを評価いただくとともに、私が掲げたまちづくりビジョンに対する皆さんからの大きな期待であると受け止めています。引き続き、素晴らしいふるさと小松を次世代へとつなぐため、重責をしっかりと果たしてまいります。

——2期8年間に、小松は大きく変わりましたが、その成果をお聞かせください。

新しい発想や民間の手法を取り入れ、まずは財政再建をはじめとした行財政改革に心を込め、スピードを上げて取り組んできました。

一方、出産・子育て環境や相談体制、救急医療体制の充実、防災・減災対策の強化など、家族みんなの安心・安全と幸せを追い求めてきました。

そのほか、北陸新幹線小松開業を見据え、東西のコントラストが際立つ駅周辺のまちづくりや、子供歌舞



▲新しいまちのイメージとまちづくりの方向性を分かりやすく示した「NEXT10年ビジョン」(2015年11月策定)

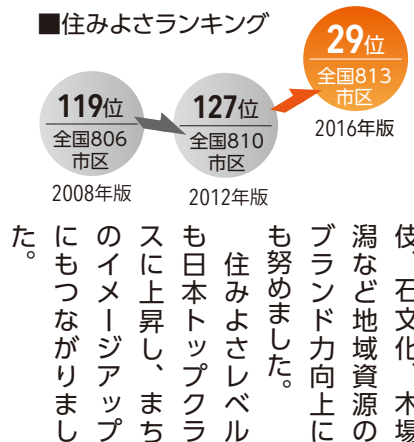


▲サイエンスヒルズこまつでは、理科・科学大好き青少年を育成。ものづくりの原点である理科や科学の楽しさを子供たちに伝えています。



▲建設中の小松駅南ブロック複合施設には「公立小松大学中央キャンパス」や「子供と市民の学びゾーン」などが入居。人材育成と交流の新たな拠点が誕生します。

■住みよさランキング



——3期目の抱負や方針をお聞かせください。

「NEXT10年ビジョン」に掲げた、日本一「おもしろい・たくましい・こころよい」まち、「はつらつ」としたひととまちを着実に実行していく

まちづくりは「ひとづくり」から。共創のチカラでふるさとの未来を拓く。

ことが私の使命だと思っています。子供から高齢者まで全ての皆さんの健康と幸せを全力で追求すること、本市の強みであるものづくりや農林水産業など産業力を更に強化していきます。

また、北陸一の優れたアクセスを生かして、大交流時代に人・モノ・文化が対流し、世界とつながる国際都市を目指します。

もちろん、財政の健全化や市役所改革は止めることなく、市民に身近で信頼される市役所づくりを続行します。

これからも心を込めて、小松の明るい未来づくりに取り組んでまいります。

——具体的にどのような施策がありますか。

まちづくりは「ひとづくり」から。全ての施策は教育へとつながるものと考えています。その中の重要なプロジェクトとして位置付けているの

が、来年4月に開学予定の「公立小松大学」です。

地域の成長を支える人材を地域で育て地域へと送り出す拠点となり、グローバル交流の第一線で活躍する人材や、ものづくり分野の企業リーダー、地域の医療や福祉ニーズに即応できる人材など、世界とふるさとで活躍するひとづくりを進めます。

若者の流出を抑えるほか、身近な大学で学ぶことができれば家族も安心です。街なかのにぎわい創出、高い知識と技術を持つ人材の確保など、まちに活気を生み出し、更に地域産業の振興にもつなげます。

来春の開学に向けて、しっかりと準備を進めていきます。

——最後に、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

まちづくりの主役は市民の皆さんです。これからも皆さんとの対話を尊重し、家族の笑顔いっぱいふるさとづくりを共に進めてまいります。

2020年に東京オリンピック・パラリンピック、2023年には北陸新幹線小松開業を控え、大交流時代がやってきます。この絶好のチャンスに、北陸の際立ったまちへと成長できるよう、一緒に未来を切り拓いていきたいと思います。